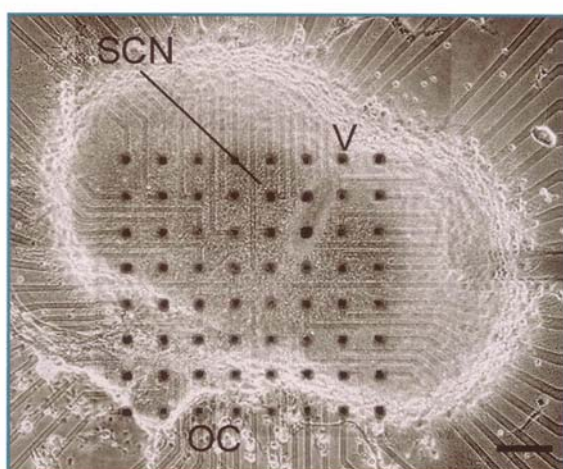


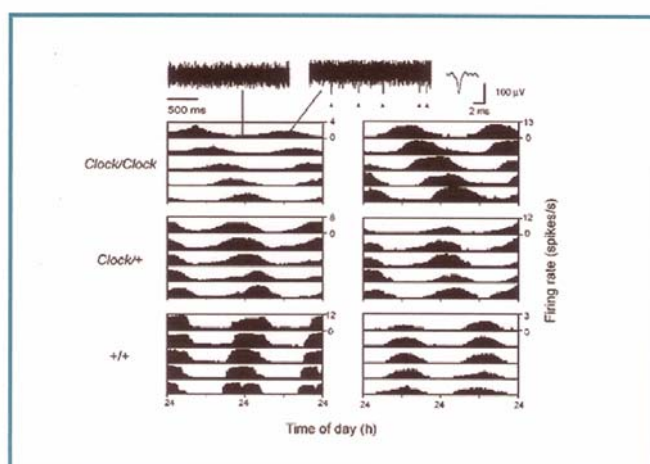
培養実験（視交叉上核スライス）

サーカディアンリズムの解析

*Clock*遺伝子欠損マウスの視交叉上核スライスで、正常より長いサーカディアンサイクルが観測された。



(左図)MEDプローブ上で正常マウスと
*Clock*遺伝子欠損マウスの視交叉上核スライス
を培養
使用プローブ: MED-210A (100 μ m 間隔)



(右図)数日間連続で自発活動を測定し、サーカディアン
サイクルを比較。上の信号は実際に記録された活動
で、矢印は検出されたスパイクを示している。
下のグラフはスパイク頻度をダブルプロットしたグラフ
で、上からClock/Clock、Clock/+、+/+それぞれスライス
から得られた結果を示している。

Nakamura, W et al. Nature Neurosci. 5: 399-400, 2002